令和４年度

本立（ほんりゅう）

甲府市立新紺屋小学校
校長室：三井　正彦
〒400-0016
甲府市武田 1-3-34
TEL:252-2578
http://www.shinkonya-e.kofu-ymn.ed.jp/

本校の学力学習状況調査の結果をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１９日（火）に全国の小中学校で実施されました。この調査は，本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容や指導方法の改善に役立てることを目的としています。

本年度の結果について，県教育委員会及び市教育委員会による指導をもとに，分析を行いました。その結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。なお，調査に参加した６年生一人一人には，個別懇談等を利用して，個人票をもとに具体的な課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

〈調査内容〉

○　教科に関する調査　［国語・算数・理科］

○　生活習慣や意識等に関する調査［児童質問紙調査］

〈分析結果の概要〉

1　本校の状況（全国との比較）

教科に関する調査の平均正答率で見た本校の結果は，全ての教科において，県より優位が認められた。しかし，「国語」「算数」「理科」全ての教科で，正答率が６０％を切る問題も見られたので，分析を行い今後の指導に生かしていく。

2　教科にかかわる課題とその改善に向けての取り組み（特に課題となる点及び改善に向けての取り組みを抜粋して掲載）

【　国　語　】

①　本校の課題

問題別正答率を見ると，設問の半数以上で全国を上回っているが，全国に比べ 0.6 ポイント下回っている問題と，正答率が６０％を切る問題もあった。全国をわずかに下回ったのは「文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整える」問題で，正答率が６０％を切ったのは「文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見つける」問題であった。

②　改善に向けての取組

○「文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整える」については，

・読み手に自分の考えを明確に伝えるためには，自分で書いた文章を読み返し，文や文章を整える習慣をつけさせる。

・内容や表現に一貫性があるか，目的に照らして適切な構成や記述になっているか，事実と感想，意見と区別して書かれているか，引用の仕方，図表やグラフの使い方は適切かといったことなどを観点として，文や文章を整えられるように指導する。

○「文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見つける」については，

・自分が推敲する際に着目したことを含め，様々な観点で互いの書いた文章を読み合い，感想や意見を伝え合うことによって，他者の文章のよいところを見つけるだけでなく，自分の文章のよいところを見つけることができるようにさせる。

【　算　数　】

①　本校の課題

問題別正答率を見ると，設問の半数以上で全国を上回っているが，全国に比べ 0.7 ポイント下回っている問題と，正答率が６０％を切る問題もあった。全国をわずかに下回ったのは「示された場面のように，数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているか」を問う問題で，正答率が６０％を切ったのは「示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を考察する」問題と「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述する」問題であった。

②　改善に向けての取組

○「示された場面のように，数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」では，

・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり，図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表させたりする。

○「示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を考察する」では，

・日常生活の中で，ある数よりも大きく見るべきか，小さく見るべきかを判断し，目的に合った概数計算の仕方を考察させる。

○「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述する」では，

・日常生活の中で，比例の関係にある二つの数量の関係性について理解し，式や言葉と結びつけられるようにする。

【 理 科 】

① 本校の課題

問題別正答率を見ると，設問の半数以上で全国を上回っているが，全国に比べ下回っている問題と，正答率が６０％を切る問題もあった。全国を9.2％下回ったのは「メスシリンダーという器具を理解しているか」「メスシリンダーの正しい使い方を身につけているか」を問う問題と，「日光は直進することを理解しているか」を問う問題であった。正答率が６０％を切ったのは，「自然の事物・現象から得た情報を，他者の気付きの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できるか」を問う問題と「実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述する」問題と「観察などで得た結果を，結果からいえることの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができるか」を問う問題であった。

② 改善に向けての取組

○ 「メスシリンダーという器具を理解しているか」「メスシリンダーの正しい使い方を身につけているか」では，
・実験や観察などで使用する器具の名称や正しい使用法などについて，しっかりと理解させた上で，実験や観察を行わせるようにする。

○ 日光は直進することを理解しているか」では，
・日光は直進することを知識として習得するだけでなく，その知識を日常生活や次の学習にどのように活用できるのか思考する必要のある学習活動を取り入れる。

○ 「自然の事物・現象から得た情報を，他者の気付きの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できる」では，
・提示された資料から数量，変化の大きさなどの特徴を読み取り，自分の考えをもち，それを言葉で表現させるようにする。
・他者と意見を交換する機会をつくり，自分の考えを言葉で表現する力を向上させる。

○ 「実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述する」では，
・問題に対する予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，観察，実験などを行った結果を事実として分析して，解釈したことを，結論の根拠として表現させる。

○ 「観察などで得た結果を，結果からいえることの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができるか」では，
・資料から結論を導き出すために必要な数量，変化の大きさなどの特徴を見つけ，他者と意見交換することを意識させることにより，自分の考えをもち，それを表現させる。

3 児童質問紙調査の本校の結果について・・・特によかった点及び改善が必要と思われる点を抜粋して掲載いたします。

【児童質問紙調査から見られる本校の傾向】

〈特に良かった点〉

○ 「朝食を毎朝食べていますか」について「している」「どちらかといえば，している」を合わせて96.5％となっている。また，「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」については全国・県ともに10％以上，「毎日同じくらいの時間に起きていますか」についても，全国を5％，県を3％上回る結果となっており，望ましい生活習慣が身に付いている児童が多いといえる。

○ 「自分には，良いところがあると思いますか」「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」については，いずれも全国・県をともに10％以上，上回る結果となっており，自己肯定感をもつとともに，将来に対する前向きな気持ちをもっていることがうかがえる。

○ 「人が困っているときは，進んで助けていますか」「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」についても，いずれも全国・県を10％以上，上回る結果となっており，自分の周りの人に対する思いやりの気持ちをもつとともに，それを行動に移そうとしている様子がうかがえる。

○ 「読書が好きですか」についても全国・県を10％上回る結果であった。

○ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」についても全国・県を20％前後，上回る結果であった。

○ 授業中の様々な場面でのタブレットなどのＩＣＴ機器の活用頻度が，全国・県を20％以上上回り，ＩＣＴ機器を使うことが勉強の役に立っていると答えている児童も，全国を3％，県を7％上回っていた。

○ ５年生までに受けた授業についてのどの質問に対しても全国・県と比較して，肯定的な回答をしている児童の割合が多く，「主体的・対話的で深い学び」の実現に近づいている状況がうかがえる。

○ 国語・算数・理科に対する質問に対しては，どの教科においても「好き」「その教科の勉強が大切だ」「授業の内容がよく分かる」「社会に出たときに役に立つ」と肯定的な回答した児童の割合が，全国・県と比較して多かった。また，その他の質問についても肯定的な回答をした児童が全国・県と比べて多かった。

〈課題と考えられる点〉

□ 「普段（月曜日から金曜日），一日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム）をしますか」「普段（月曜日から金曜日），一日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンでＳＮＳや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）」に対して，いずれも４時間以上と解答した児童が，全国を4％，県を5％上回っていた。ゲームや動画視聴などをするときの時間について，家庭での約束を確認する必要がある。

□ 「難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか」については，「当てはまる」が全国・県を10％以上上回ったものの，「どちらかといえば，当てはまらない」も全国を2％，県を5％上回る結果となった。

＊以上，本年度の「全国学力・学習状況調査」の概要についてお知らせをさせていただきました。今後も，児童の学力向上に向け，また望ましい生活習慣づくりに向け，ご家庭や地域の皆様にご協力いただかなければならないこともありますが，どうぞよろしくお願いいたします。